

若者たちの声を聞く

●問い合わせ
政策推進課企画政策室
☎ 53-2111
(内線5315533)

厚生労働省が公表した2040年までの人口推計を受けて設置した人口減少問題対策委員会の一つ、元気なまちづくり部会が、若者の男女の交流などについての率直な考えを聞く「意見交換会」を開催しました。
この意見交換会と、第2部として行われた市長とのふれあいトークの内容の一部をお知らせします。

とともに打ち解け、各班とも時折、笑顔をのぞかせながらも、自分たちの今の状況や考え方を話を話し合いました。
問題の事業に生かしていくことにしています。また、今回のような会をきっかけに、若者の交流する場の創出につなげていくよう取り組んでいきます。



意見交換会では、さまざまな意見が聞かれました

第1部 意見交換会

元気なまちづくり部会では市内の青年層の人たちに集まっていただき、若者同士が交流するためのネットワークづくりやそれぞれのノウハウを生かした出合いの場の創出などについて意見を交わしました。

参加者は、各地区の商工会青年部やスポーツ団体、社会教育団体などの18人。意見交換会は3班に分かれ、各班の担当の市職員の進行によって行われました。

参加者は、初対面の人ばかりで、最初のうちはやや緊張していた様子でしたが、時間の経過

意見交換会で出された意見など(抜粋)

- 若者の集まる場の必要性
 - ・地域の若い人は、「結婚」について焦っていない状況にある
 - ・若い女性が交流する場が必要
 - ・集まる場を最初は求めていなくても、何度か顔を合わせていれば、それが大切な場になる
- 男女が交流するイベントサークルの必要性
 - ・市全体で連携するには行政がリーダーシップを取らないとまとまらない
 - ・スポーツで交流するのはどうか。何をするかは課題だが、友達と気軽に参加できるようなものがよい
 - ・交流したい人を集めることからスタート。ただし、集まる時間と場所の選定は重要だ
- 村上市で実施できるとしたら
 - ・テーマを決めて回数を重ねれば、交流の場ができるのではないが
 - ・一大イベントより、地域版のイベントがたくさんあった方がいい
 - ・何かを作ったり、気軽に活動をしたりするイベントなら参加しやすいのでは
 - ・婚活を前面に出すより「共通する趣味」などで自然と男女が共感できるような取り組みが必要



第2部 ふれあい トーク

ふれあいトークでの
意見など（抜粋）

意見交換会に引き続き第2部として市長とのふれあいトークを開催しました。

今回は、参加者と大滝市長が車座になり、若者たちが交流する場や結婚感などについて話し合いました。

参加者は、大滝市長を前に初めは少し緊張していたようでしたが、大滝市長が参加者への問いかけなどをすることで、徐々に和やかなふれあいトークとなりました。



—市職員で独身の人はどれ位いますか。

かなりいると思います。最近では晩婚化しているように思えますし、結婚への価値観が変わってきていると思います。

—商工会で婚活をしています
が女性が集まりません。市の方でも広報してもらうことはできませんか。

要請があれば広報することは可能です。

—やりたい仕事がないと若い人は外へ出てしまう。小さい頃から村上に残ろうという気持を育てていかなければと思います。子どもの頃からの教育にも関わる大切なことだと思えます。

—他の自治体で婚活が成功しているところはありますか。
富山県の南砺市では、地域の人の出会いの場をサポートするような取り組みをしています。



—対象を限定した婚活事業はできないですか。また農業大学などの大学生を呼んで体験活動を行うといったことは市役所が主体となってできないですか。
農業などをやりたいという人もいますので、そういうところに着目して出会いの場を設けることは、いい考えだと思います。

大滝市長から参加者へ

—女性もフルタイムで働きたいですか。

それぞれだと思いますが、家にいたいという人も多いです。

—出会いの場はないですか。
なかなかありませんね。

—結婚はしたいと思えますか。
はい。周りで結婚する人が増え、結婚したいという気持ちが強くなりました。



和やかな雰囲気の中で行われたふれあいトーク